

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

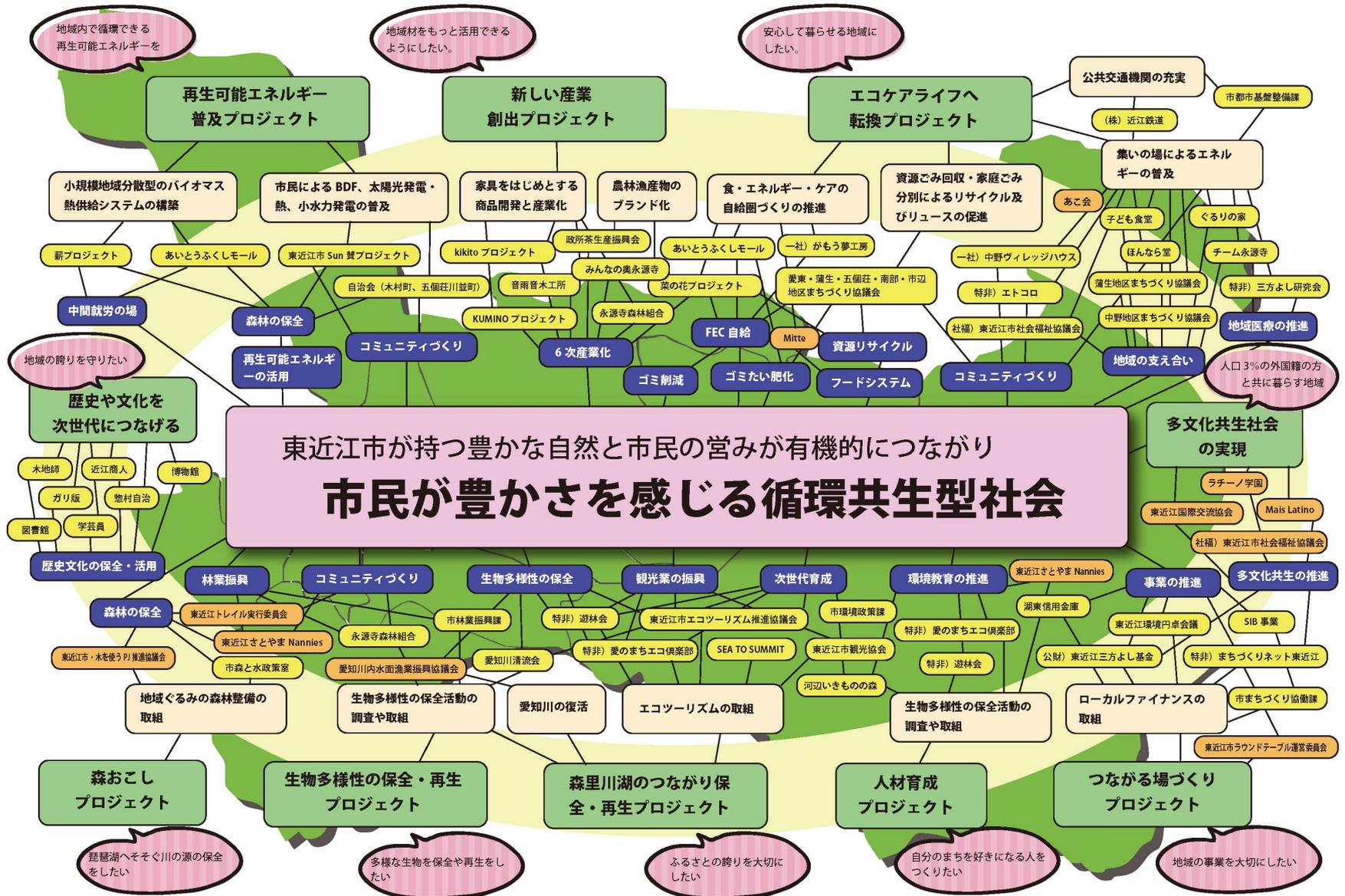
活動団体名：NPO法人まちづくりネット東近江
(公益財団法人東近江三方よし基金)

活動地域：滋賀県東近江市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

市民が豊かさを感じる循環共生型社会の実現

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

【地域の課題等を的確にとらえた環境円卓会議を開催】

鈴鹿山脈から琵琶湖に流れる愛知川を取り上げ、「愛知川の再認識と今みんなで出来ること」というテーマで円卓会議を開催した。新型コロナ対策として、初のオンライン開催とし、これまで以上の参加者が参加できた。

【融資や社会的投資の仕組みを実現】

2019年度に検討した地元湖東信用金庫の融資制度について、具体的な手続きについてルールを定める協議を行い、春には制度化を目指す。また、湖東信用金庫と民都機構が資金を拠出し、まちづくりファンドを創設する協議に参加した。

【休眠預金等を活用した公益活動支援】

JANPIAが公募した「草の根活動支援事業」にコンソーシアム（富山県南砺市、島根県雲南市と連携）で提案し採択され事業を実施している。また、東近江市単独では「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の採択を受け、既に実行団体の支援を開始した。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	農福連携事業		
	概要	引きこもりや障がいのある方々に働く場を提供している団体と龍谷大学、NTT西日本、UR、公益財団法人東近江三方よし基金が連携して課題解決型ではなく価値創造型の農福連携事業を実現する。		
	課題・ボトルネック	土地の取得等	力を借りたい人物・企業像	出口戦略

2	事業名	東近江の森と人をつなぐ あかね基金助成事業		
	概要	2020年度は、ガバメントクラウドファンディングや企業・個人の寄附を財源として、助成事業の公募中。里山保育を行う人材育成の事業やトレイル実行委員会などの活動を支援。環境・経済・社会の評価軸で成果目標を設定し、伴走支援を行う。		
	課題・ボトルネック	新型コロナの影響により事業期間延長	力を借りたい人物・企業像	継続寄附者

3	事業名	【新】小さな自然再生と社会的投資		
	概要	愛知川などの自然をベースに実施予定の小さな自然再生をきっかけに、地域住民や企業に地域の自然環境に関心を持ってもらうため、東近江市版SIBの仕組みの活用を検討する。		
	課題・ボトルネック	成果評価の設計	力を借りたい人物・企業像	研究者、金融会社

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- グリーンインフラに関わる関係者に出会うことで、金融とグリーンインフラをつなぐ仕組みの実装が必要であることがわかった。
- 都市金融機関では、インフラ投資の可能性について関心が高まっていることが分かった。
- 新型コロナの影響を受けている方々との出会いが新たな事業のタネになった。

例：明日を創るプロジェクト、外国人支援

地域のコンセプトを描く！

- 新型コロナに対する休眠預金を活用した事業に取り組む中で、外国人支援の必要性を理解する団体が増えた。
- 地元の商店等を応援するための明日を創るプロジェクトをきっかけに、つながりにくかった分野の方々と縁が広がった。

事業のストーリーを語る！

- 分野も立場も違う人が協働で事業に向き合うには、共通言語や空気感を共感する時間が重要だと気づいた。共感が生まれると、事業の具体化が現実的になる。

地域の目標を立てる！

- 助成や融資のタイミングに、環境・経済・社会の成果評価を組み合わせることで、活動の効果やミッションを地域内外に伝えるツールに利用できると事業者が気づくことができた。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 一級河川である愛知川の複雑な利害関係者が一つのテーブルにつき議論することが可能となったが、組織として大きな動きを進めるにはやはり時間がかかる。住民主体の小さな活動から、新しいチャレンジをはじめ、仕組みの実装を提案していくことが重要である。
- 第2次産業の企業誘致によって増加している外国人について、新型コロナの影響のおかげで地域の課題が見える化され、働くという現場の話だけではなく、教育・医療・福祉等生活に関わる全てのフェーズで課題があることが共有された。しかし、その支援を行う団体や担当部署は明確ではなく、今後の戦略が必要である。

今後の展望

東近江版SIBの仕組みを、小さな自然再生(河床耕耘や魚道整備等)に活用するための実証事業を行う。地域住民や企業の出資により、当事者意識や防災意識の向上に貢献し、自然に親しむ意識の醸成につながることを実証調査する。



ポイント

- ・「東近江市」の役割を担う資金提供者
- ・事業主体は地元活動団体
- ・成果評価のあり方を専門家と検討

東近江三方よし基金 東近江市版ソーシャルインパクトボンド (SIB)

- 既存の行政の補助金等を成果報酬型に変えることにより、政策実現の可能性を高める。成果が評価されるまで、必要な資金を基金と協働で調達することにより、市民の応援団を増やす。補助金改革の一助とする。

【基金の役割】

- ・ 中間支援組織として仕組みをコーディネートする。
- ・ 既存事業で対象となった事業体へ、外部からの資金調達を支援する。
- ・ 第三者評価委員会を設置し、成果指標の設定、成果評価を行う。
- ・ 評価結果を外部資金提供者および行政に報告する。
- ・ 成果を評価したのち、行政資金等を外部の資金提供者に利子付きで償還する。

